大阪狭山市文化財報告書14

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書6

1996年3月

大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市文化財報告書14

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書6

1996年3月

大阪狭山市教育委員会

序　文

大阪狭山市内には、府の史跡名勝に指定されております狭山池をはじめとして、多くの文化財があります。本年度は、狭山池の築造時に埋設された東樋下層遺構の樋管に用いられている木材の伐採年代が西暦616年であると判明し、狭山池が7世紀前半に築造されたことがあきらかになり、世間の関心を集めました。

このような調査と併行しまして、大阪狭山市教育委員会では、平成2年度より継続して行なっております個人住宅建設に先立つ発掘調査を、本年度も国と大阪府の補助金を受けて実施することができました。

本年度は、東野廃寺と池尻城跡と半田遺跡と陶邑窯跡群で発掘調査を行い、貴重な成果を得ることができました。本報告書はこれらの調査結果をまとめたものです。本書がわずかでも各分野における研究の一助となれば、まさに望外の喜びです。

本年度の調査におきましては、建築主の皆様ならびに調査地周辺の皆様に多くのご協力を賜りました。厚く感謝申し上げます。

また、今後ともの文化財保護に対する御理解と御支援のほどを、よろしくお願い申し上げます。

平成8年3月

大阪狭山市教育委員会
教育長　岡　本　修　一

例　言

1．本書は国庫および府費の補助を受け、大阪狭山市教育委員会が平成７年度国庫・府費補助事業として大阪狭山市内で実施した、個人住宅等建設に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査の成果をまとめた概要報告書である。

2．収録した各調査は以下の通りである。

　1．東野廃寺　　：95－１区
　2．池尻城跡　　：95－１区
　3．半田遺跡　　：95－１区
　4．陶邑窯跡群　：94－４区・95－１区

　現地調査は、大阪狭山市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課　植田隆司が担当した。

3．現地調査に当たっては、桜渕繁太郎・高林正男・中原忠明・浦壁晃をはじめとする諸氏の協力を得た。

　遺構・遺物の整理作業は調査担当者の他、谷中ひろみ・陽岡真紀が主としてこれを行い、また、吉本和美・山崎和子・笹岡裕里子・林奈智香をはじめとする諸氏の協力を得た。

　遺構・遺物の写真撮影は担当者が行なった。

4．本書の編集・執筆は植田が行なった。

本　文　目　次

（頁）

序　文　　大阪狭山市教育委員会教育長　岡本修一
例　言
はじめに …… 1
1．東野廃寺　95—１区 …… 3
2．池尻城跡　95—１区 …… 5
3．半田遺跡　95—１区 …… 7
4．陶邑窯跡群　94—４区 …… 9
　　95—１区 …… 13

挿図目次

(頁)
第1図　大阪狭山市周辺の地形と遺跡分布……2
第2図　東野廃寺調査区位置図……3
第3図　東野廃寺95—1区調査箇所……4
第4図　東野廃寺95—1区遺構平断面図……4
第5図　池尻城跡調査区位置図……5
第6図　池尻城跡95—1区調査箇所……6
第7図　池尻城跡95—1区土層断面図……6
第8図　半田遺跡調査区位置図……7
第9図　半田遺跡95—1区調査箇所……8
第10図　半田遺跡95—1区土層断面図……8
第11図　陶邑窯跡群94—4区位置図……10
第12図　陶邑窯跡群94—4区調査箇所……11
第13図　陶邑窯跡群94—4区土層断面図……11
第14図　陶邑窯跡群94—4区出土遺物……12
第15図　陶邑窯跡群95—1区出土遺物……13
第16図　陶邑窯跡群95—1区位置図……14
第17図　陶邑窯跡群95—1区調査箇所……14
第18図　陶邑窯跡群95—1区土層断面図……14

図版目次

図版1　上空からのぞむ狭山藩陣屋跡周辺
図版2　東野廃寺95—1区
図版3　東野廃寺95—1区
図版4　池尻城跡95—1区
図版5　半田遺跡95—1区
図版6　陶邑窯跡群94—4区
図版7　陶邑窯跡群95—1区
図版8　陶邑窯跡群出土遺物

はじめに

大阪狭山市は、ベッドタウン化された昭和40年代以降に急激な人口増加をみた。近年においては、その頃の勢いは無いとはいえ、住宅開発は引続き盛んである。また、その頃に建設された木造住宅の建替えや増改築が行われる時期にさしかかっていることもあり、これらに伴う埋蔵文化財の発掘届の提出件数にもほとんど減少の兆しはみられない。この傾向は今後も持続するものと考えられる。

本報告書においては、本年度に大阪狭山市教育委員会が実施した、市内における個人住宅建設等に伴う発掘調査の成果を報告する。ただし、狭山ニュータウンなど既に大規模な造成工事が行われた箇所における住宅の新築・増改築に際しては、本市教育委員会は立会調査を行い、これに対応している。立会調査を行なった結果、遺構・遺物が検出されなかった事例が多数あったが、これらについては報告を省略する。

ところで、大阪狭山市域の遺跡分布と地形分類は第1図の通りである。本市は読んで字のごとく、西側の泉北丘陵と東側の羽曳野丘陵に挟まれた地形で、この両丘陵の間に幾筋かの南北方向の谷筋が走っている。これらの谷筋から、旧石器時代・縄文時代の打製石器が幾度か採集されている[1]。

弥生時代の遺跡としては、市域南部の高地において、弥生時代後期の集落跡が検出された、茱萸木遺跡がわずかに知られるのみである。

古墳時代中期に入ると、泉北丘陵を中心にその造営が展開された陶邑窯跡群が東方へとその域を拡大した結果、本市域西端に相当する陶器山丘陵とその北側の高位段丘の斜面に須恵器窯が数多く築かれた。古墳時代後期の6世紀中葉～後葉になると、陶邑窯跡群は、さらに東方へとその域を拡大し、本市域の至るところの中位段丘崖に窯を築き、須恵器生産を行う。7世紀前葉～中葉になると、窯焼きの燃料である薪や窯を築く斜面が不足したようであり、西暦616年以後に土盛りが行われた狭山池の北堤[2]の外側斜面のような、窯を造営するには不適当な箇所にまで窯を築くようになる[3]。

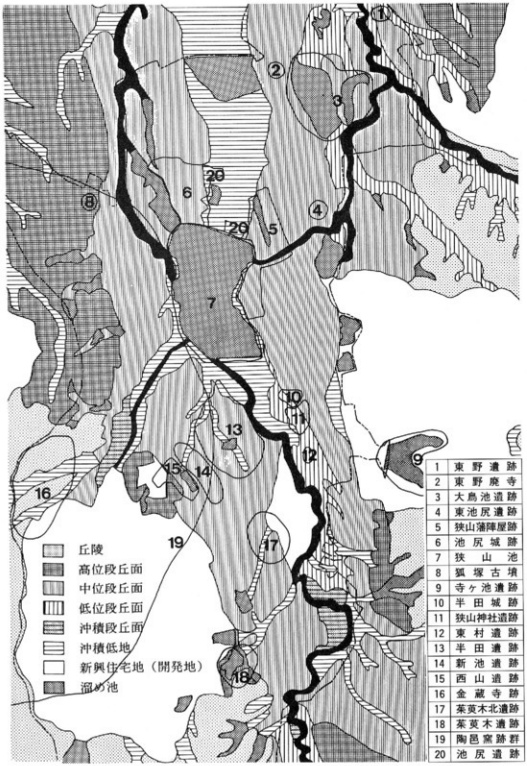
この狭山池が築かれた主谷の東西に広がる中位段丘上に、東野廃寺・池尻城跡・狭山神社遺跡・狭山藩陣屋跡などの古代・中世・近世の諸遺跡が成立している。

註記

1）西野良政氏・上野正和氏・西岡勝彦氏の採集資料などがある。
上野正和「狭山の考古学研究と私」『さやま誌 大阪狭山市文化財紀要』創刊号、1992

2）1994年～1995年の調査で東樋下層遺構が検出され、奈良国立文化財研究所 光谷拓実氏の調査により、その材に用いられているコウヤマキの伐採年代が A.D.616年と判明した。この東樋は、狭山池を堰止める北堤の最下層の盛土によって埋設されている。ゆえに、狭山池築造当初の堤と考えられる最下層の盛土は A.D.616年以後に施工されたものと判断される。

3）狭山池調査事務所『狭山池調査事務所平成5年度調査報告書』1994年



第1図　大阪狭山市周辺の地形と遺跡分布（豊田兼典氏原図作成）

1．東野廃寺

東野廃寺は狭山池の東側の中位段丘上に立地している。東野の蓮光寺一帯においては古瓦が採集され、この蓮光寺境内には塔心礎が残されているために、この付近を東野廃寺と呼称して埋蔵文化財包蔵地と認識している。以前に出土した単弁蓮華文の軒丸瓦[1]は、飛鳥時代の様式を残す白鳳期のものと考えられており、また、蓮光寺周辺の水田の区画に現在の寺域を中心とした整一性が看取されるため、７世紀後半にこの地に寺院が営まれていたと想定されている。

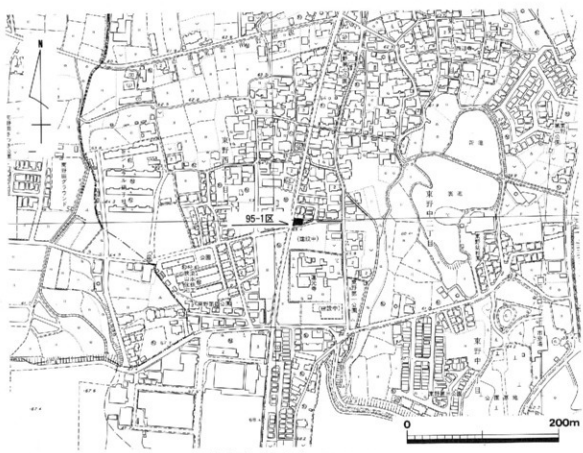
本報告書にて報告を行なっている本年度の調査区は、第２図にその位置を示すように、蓮光寺の周囲をとりまく区画と里道をはさんで北接する箇所に位置する。ゆえに、東野廃寺の寺域復元に資する何らかの成果が期待された。

東野廃寺95―１区発掘調査報告

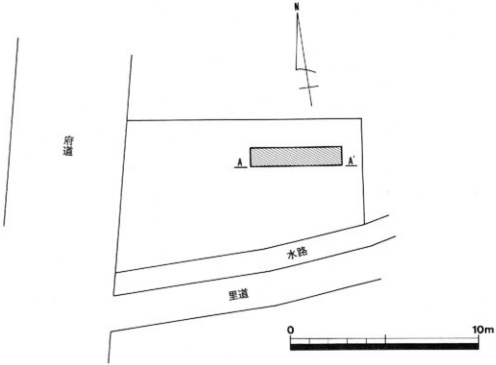
東野廃寺95－１区は、大阪狭山市東野中二丁目1006番地23号に所在する。

調査は、開発用地の中央から北東よりの箇所で南北1.0m・東西4.8mの調査区を設定して、平成８年２月５日から同月15日まで行なった。

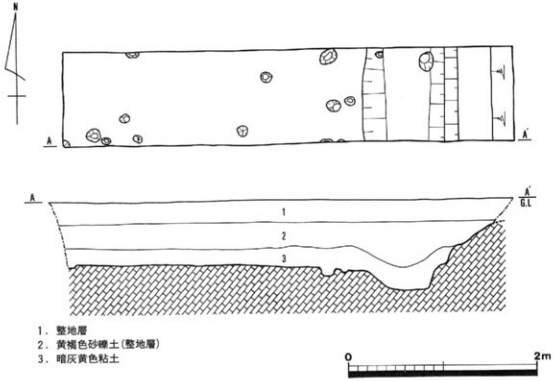
用地西側を南北にはしる府道の地表面と、用地内の地表面の高さはほぼ等しい。この地表面下約50cmまで整地層がつづき、さらに厚さ約20cmの暗灰黄色粘土層があり、その直下で地山面となる。この面で、幅約1.0m・深さ20cm～50cmを測る南北方向へのびる溝を１条、ピットを15検出した。これらの遺構に伴う出土遺物はなく、遺構の形成時期等は不明である。



第２図　東野廃寺調査区位置図



第３図　東野廃寺95－1区調査箇所



第４図　東野廃寺95－1区遺構平断面図

2．池尻城跡

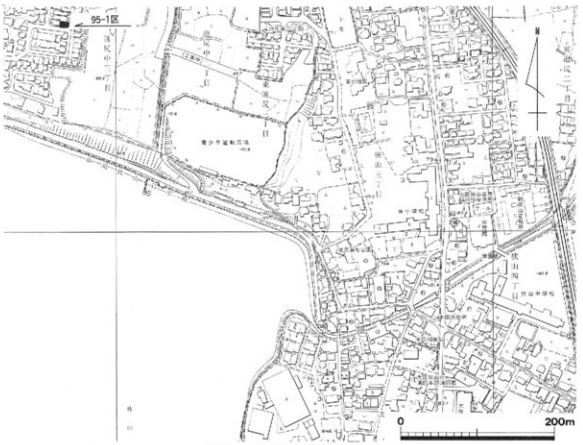
池尻城跡は、狭山藩陣屋跡と谷を隔てて向いあう位置、狭山池からみて北西方向の中位段丘上に立地している。この場所に中世の城跡が存在するであろうことは、その段丘崖が規格性に富んだ形状を呈していることから、早くから指摘されていた。

昭和60年に、当該地域の宅地開発に伴って、大阪府教育委員会によって実施された緊急発掘調査[1]では、池尻城の縄張りがほぼ明らかなものとなった。このときの調査対象地を含めて、池尻城跡として埋蔵文化財包蔵地の範囲内と定めている地域のほぼ全域が宅地となっており、現在では、これら既存住宅の建て替えに伴う発掘調査が中心となっている。

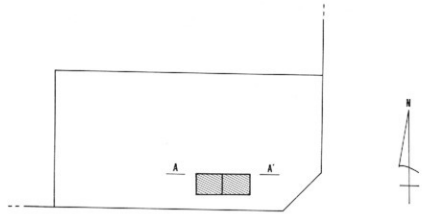
池尻城跡95—1区発掘調査報告

池尻城跡95－1区は、大阪狭山市池尻中三丁目614番地32号に所在する。

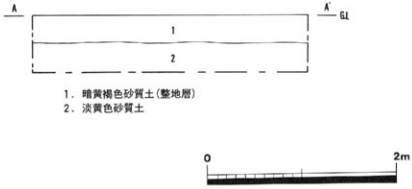
調査は、第6図の箇所に、南北1.1m・東西2.8mの調査区を設定して、平成8年2月20日から同月22日まで行なった。用地内の地表面と道路側の地表面とでは約80cmの比高差がある。当該調査によって確認できた土層断面は、用地内の地表から約60cmまでの深さにとどまり、第7図のように地山面まで確認することができなかった。



第5図　池尻城跡調査区位置図



第６図　池尻城跡95－1区調査箇所



第７図　池尻城跡95－1区土層断面図

3．半田遺跡

昭和54年～昭和55年にかけて、府立狭山高等学校建設に伴う発掘調査を大阪府教育委員会が実施し、中世から近世にかけての遺構と遺物が多く検出された[1]。この調査以降、当該地域周辺を半田遺跡として認知し、共同住宅や個人住宅の建設のたびに遺構の確認に努めてきたが、いまだにその成果を得ず、半田遺跡の全体像を把握するに至っていない。おそらくは、狭山高校近辺の地域を中心として、周辺の各地点間において異なった密度で遺構が広がっているのであろう。

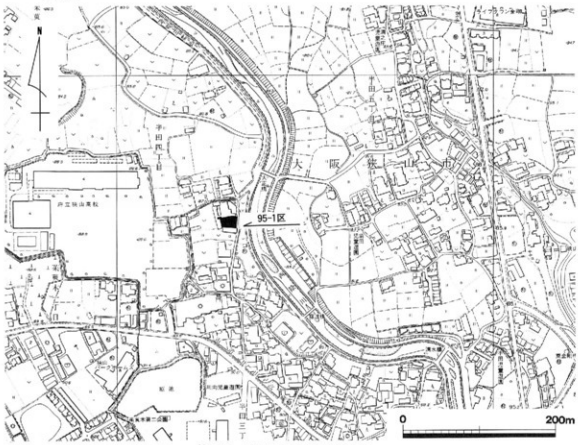
半田遺跡95—1区発掘調査報告

半田遺跡95—1区は、大阪狭山市半田三丁目1547番地に所在する。狭山高校東方に位置し、中位段丘面東端に立地する。用地東側の里道を境として、その東側が段丘崖となっており、その下を西除川が北流する。

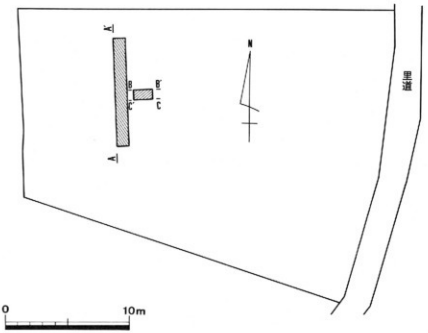
調査は、第9図の箇所に南北5.6m・東西1.0mの調査区と南北0.9m・東西1.6mの拡張区を設定して、平成7年9月12日から同月14日まで実施した。結果、第10図に示すとおり、地山面まで掘削を行い、遺構検出に努めたが、地山の起伏や撹乱による落ち込み以外には遺構と認定しうるものは存在しなかった。

註記

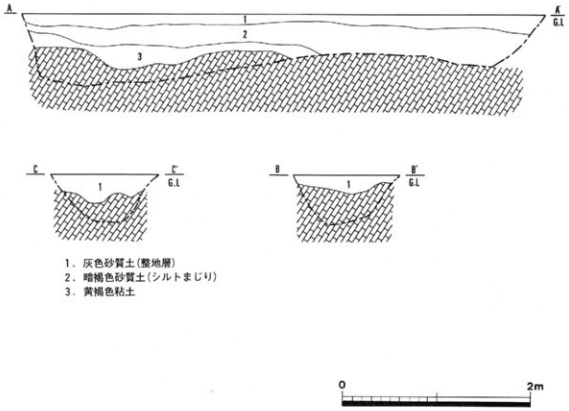
1）井藤　徹・山本　彰『大阪府立狭山高等学校建設に伴う半田遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会、1981年



第8図　半田遺跡調査区位置図



第9図　半田遺跡95－1区調査箇所



第10図　半田遺跡95－1区土層断面図

4．陶邑窯跡群

陶邑窯跡群は、現在の行政区画の上では堺市・和泉市・岸和田市・大阪狭山市にわたる広範囲の地域に分布している。本市域内では狭山池西岸以西の地域、すなわち、陶器山丘陵およびそれに連なる高位段丘・中位段丘に立地する窯跡を陶邑窯跡群中に含め、『大阪狭山市埋蔵文化財分布図』で埋蔵文化財包蔵地としている。しかし、実際には狭山池東岸以東の中位段丘崖にも多くの須恵器窯跡が存在しており、学術的にはこれらを陶邑窯跡群中に含めて理解する方が妥当であろう。

本年度の調査は95―1区の1箇所のみとなったが、昨年度末の「大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書5」の出稿後に調査を実施した94―4区の調査結果を、本報告書にてあわせて報告する。

陶邑窯跡群94―4区発掘調査報告

陶邑窯跡群94－4区は、大阪狭山市池尻北二丁目1326番地9号に所在する。当該調査区は、狭山池の東岸や太満池の東岸となっている旧天野川右岸の中位段丘崖下端付近に立地する。

南北にのびるこの崖面には、狭山池2号窯・狭山池3号窯[1]・東池尻1号窯[2]・太満池南窯・太満池北窯[3]など、ＴＫ43型式・ＴＫ209型式・ＴＫ217型式の須恵器を産出していた窯跡が確認されている。当該調査区の付近では北北東約50mの地点に1基、北東約20mの地点に1基の窯跡が「大阪狭山市埋蔵文化財分布図」にドットされている。このうちの北側の窯跡は『狭山町史』第1巻・本文編[4]（以降、『町史』と略記する。）では「45　東池尻北西の窯」（45号窯）に該当し、「窯壁土器片散乱」と記述されており、森編年Ⅲ期の須恵器が採集されたようである。現在、この地点には崖上にアスファルト舗装された駐車場があり、崖下には住宅が建っており、崖面はコンクリート擁壁で覆われているため、窯跡の遺存状況を確認することができない。また、南側の窯は『町史』の「46　東池尻北西の窯」（46号窯）に該当する。同書の記述には「窯壁、土器片散乱」とあり、森編年Ⅲ期の須恵器が採集されたようである。この窯跡は、『大阪狭山市埋蔵文化財分布図』に従えば、45号窯と同様に駐車場の下の崖面に遺存することになるが、これより約30m南方の畑地西側の崖下で踏査を行なったところ、ＴＫ43型式～ＴＫ209型式の須恵器が地表上に散布することが確認できた。ゆえに、46号窯は、分布図のドット地点と、現時点で散布が確認できる地点との範囲内に遺存する可能性を考慮せねばならない。今回調査を行なった地点はこの範囲内に含まれるため、46号窯の灰原が遺存する可能性を有していた。

前述のように46号窯の位置が不明であるので、調査区の長軸を中位段丘崖の傾斜面に平行して第12図の箇所に設定し、南北3.0m・東西0.8mの範囲内で掘削を行なった。調査期間は、平

成７年３月27日から同月29日である。

(1) 層　序

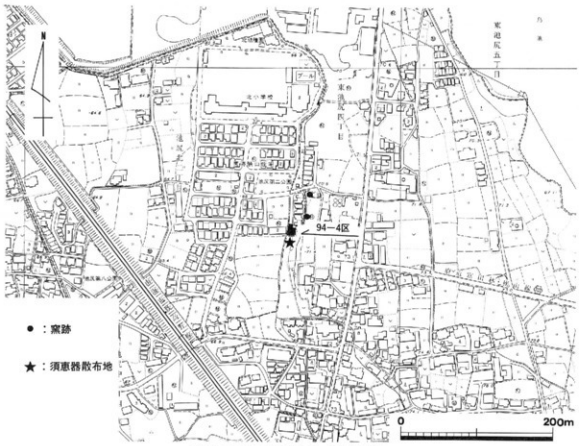
現地表面から約20cmの深さまで整地層が入っており、さらに、地表下約80cmの深さまでは暗灰褐色砂質土・暗灰色シルト・青灰色砂礫土が続く。その下層に、須恵器片を包含する暗灰色砂質土が約50cmの厚さで堆積している。その下層には灰色砂質土があるが、おそらく、１m程度の厚みがあり、さらにその下で地山面が検出されるものと推測する。

須恵器の包含がみられた暗灰色砂質土層が、窯体の破壊等に伴う崩落土であるか、窯体や灰原が破壊されてのちの盛土等であるのかは即断できないが、灰土や焼土がほとんど含まれていないことから、おそらく後者であろうと考えている。

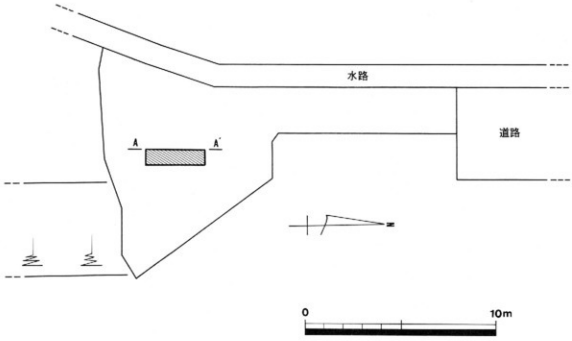
(2) 遺　物

出土した遺物の総量は、窯壁片等も含めてコンテナバット２箱程度である。そのうち、かろうじて図化が可能であったものは第14図に掲載したもののみである。１の杯蓋は、口径10.6cm・残存高2.9cmを測る。２の高杯は長脚２段でスカシはない。基部径4.9cmを測る。３の高杯は脚底径7.8cm・基部径4.2cm・残存高3.3cmを測る。脚部内面に窯壁片が付着している。

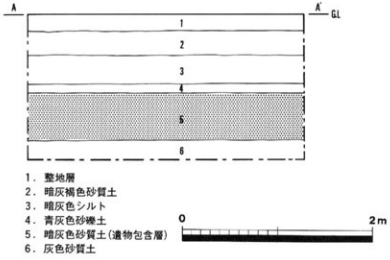
９の陶器椀は、第３層内出土である。



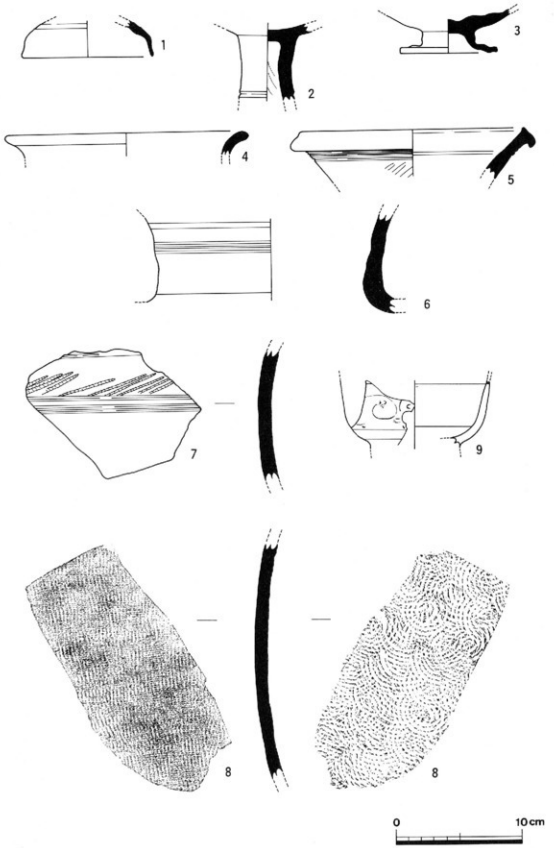
第11図　陶邑窯跡群94－4区位置図



第12図　陶邑窯跡群94－4区調査箇所



第13図　陶邑窯跡群94－4区土層断面図



第14図　陶邑窯跡群94－4区出土遺物

陶邑窯跡群95－１区発掘調査報告

陶邑窯跡群95－１区は、大阪狭山市山本東520番地２号・３号に所在する。本調査区の東側には比高差７～８ｍを測る高位段丘崖があり、当該地は高位段丘面の東端に位置している。東側の段丘崖にはＭＴ42号窯が遺存すると考えられており、崖下では現在でも須恵器片が地表面に散布している。また、当該調査区の北方約100ｍの地点には、本市内において今までで唯一確認された古墳である、狐塚古墳[5]が存在した。

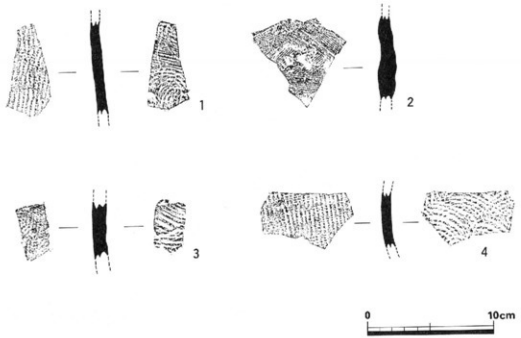
調査は、第17図に示す箇所に、南北1.0ｍ・東西10.2ｍの調査区と南北3.0ｍ・東西1.0ｍの拡張区を設定して、平成７年11月１日から同月10日まで実施した。

層序は、表土層の下に厚さ10cmの淡褐色砂質土層、厚さ約40cmの暗橙灰色シルト層、厚さ約40cmの淡灰黄色礫砂土層と続き、その直下で淡黄色礫砂土の地山面があらわれる。

第４層の淡灰黄色礫砂土中から、第15図に掲げる須恵器片が出土したが、遺構等は検出できなかった。

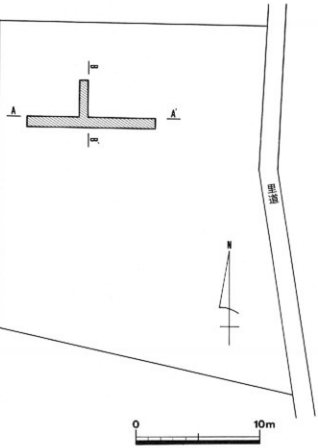
註記

１）ａ：狭山池調査事務所『狭山池調査事務所平成２年度調査報告書』1991年
　　ｂ：狭山池調査事務所『狭山池調査事務所平成３年度調査報告書』1992年
　　ｃ：狭山池調査事務所『狭山池調査事務所平成４年度調査報告書』1993年
２）前出註文献１－ｃ
３）市川秀之・植田隆司「太満池南窯・北窯発掘調査報告書」『大阪狭山市文化財報告書』５、1991年
４）森浩一「第１章第３節 土器の生産」『狭山町史』第１巻、本文編、1967年
５）末永雅雄「第１章第２節 古墳と火葬墓」『狭山町史』第１巻、本文編、1967年

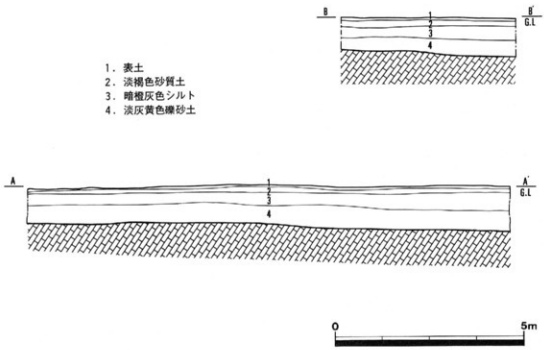


第15図　陶邑窯跡群95－１区出土遺物

第16図　陶邑窯跡群95－1区位置図



第17図　陶邑窯跡群95－1区調査箇所



1．表土
2．淡褐色砂質土
3．暗橙灰色シルト
4．淡灰黄色礫砂土

第18図　陶邑窯跡群95－1区土層断面図

報告書抄録

ふりがな	おおさかさやましないいせきぐんはっくつちょうさがいようほうこくしょ6
書名	大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書6
副書名	
シリーズ名	大阪狭山市文化財報告書
シリーズ番号	14
編著者名	植田隆司
編集機関	大阪狭山市教育委員会
所在地	〒589　大阪府大阪狭山市狭山1丁目2384－1　TEL.0723-66-0011
発行年月日	西暦　1996年　3月29日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
東野廃寺（ひがしのはいじ）	大阪府大阪狭山市東野（おおさかふおおさかさやましひがしの）	27231	—	34度30分15秒	135度33分30秒	95－1区 19960205～19960215	5	個人住宅建設に伴う事前調査
池尻城跡（いけじりじょうあと）	大阪府大阪狭山市池尻（おおさかふおおさかさやましいけじり）	27231	—	34度30分20秒	135度33分10秒	95－1区 19960220～19960222	3	個人住宅建設に伴う事前調査
半田遺跡（はんだいせき）	大阪府大阪狭山市半田（おおさかふおおさかさやましはんだ）	27231	—	34度29分30秒	135度33分10秒	95－1区 19950912～19950914	7	個人住宅建設に伴う事前調査
陶邑窯跡群（すえむらようせきぐん）	大阪府大阪狭山市（おおさかふおおさかさやまし）	27231	—	34度28分00秒～31分00秒	135度32分10秒～33分10秒	94－4区 19950327～19950329 95－1区 19951101～19951110	3 14	個人住宅建設に伴う事前調査

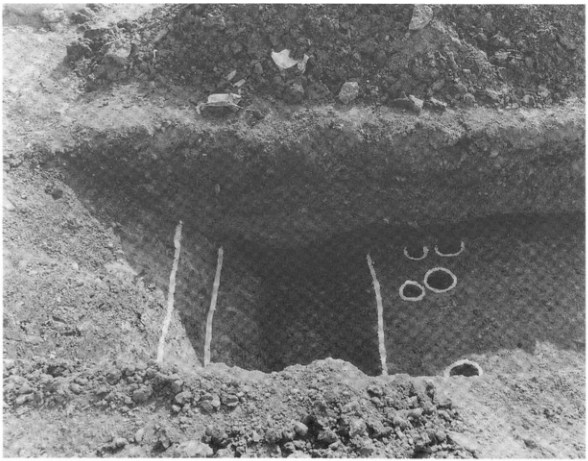
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東野廃寺	社寺跡	白鳳期（95－1区は不明）	95－1区／溝：1条 柱穴・抗跡：15	なし	
池尻城跡	城館跡	鎌倉時代末期～室町時代初頭	95－1区／なし	なし	
半田遺跡	集落跡	中世～近世	95－1区／なし	なし	
陶邑窯跡群	生産遺跡	古墳時代中期～終末期	94－4区／なし 95－1区／なし	94－4区／須恵器：盖杯・高杯・甕、陶器：椀 95－1区／須恵器：甕	

図　　版

図版1　上空よりのぞむ狭山藩陣屋跡周辺

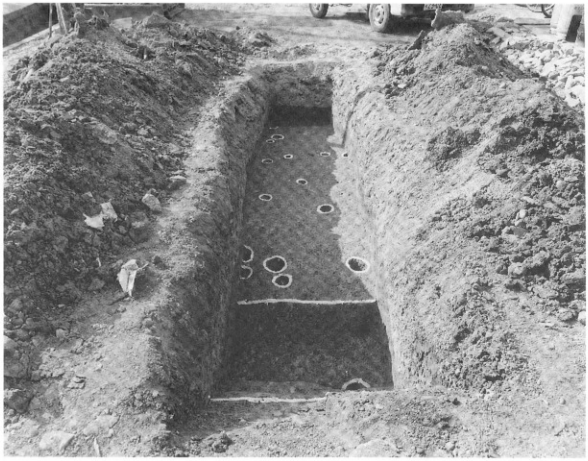
図版2　東野廃寺95-1区

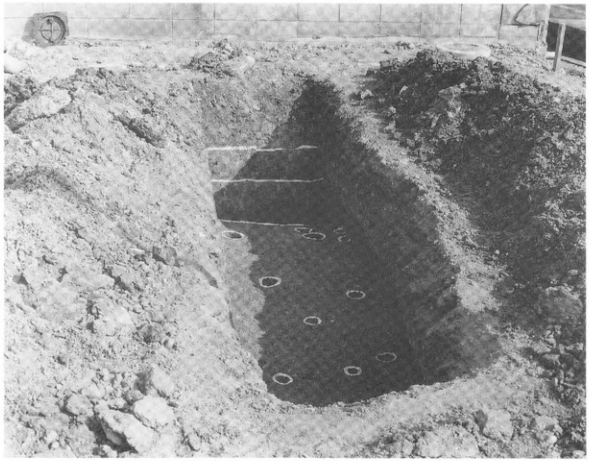
a.調査区より蓮光寺方面をのぞむ



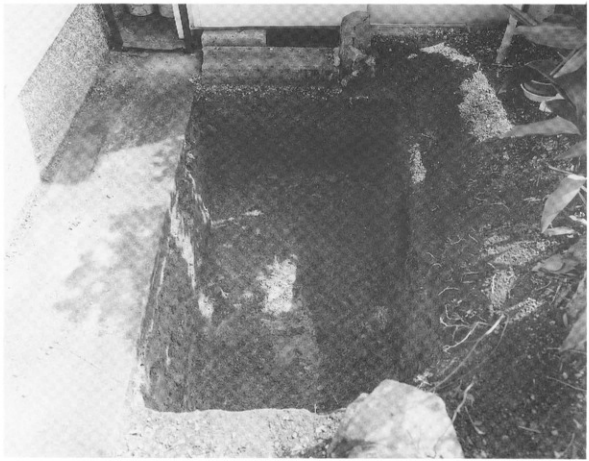
b.溝

図版3　東野廃寺95－1区



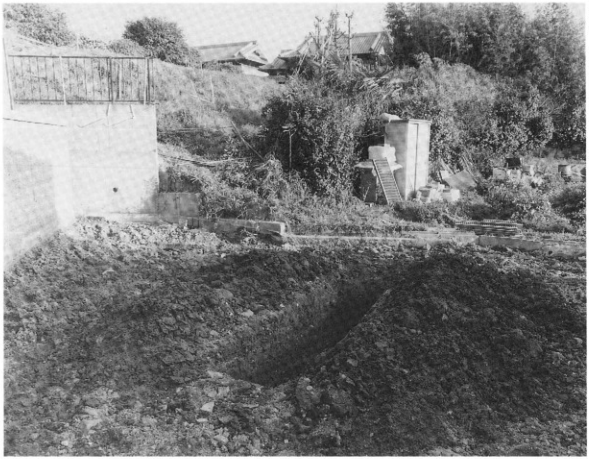


図版4　池尻城跡95－1区

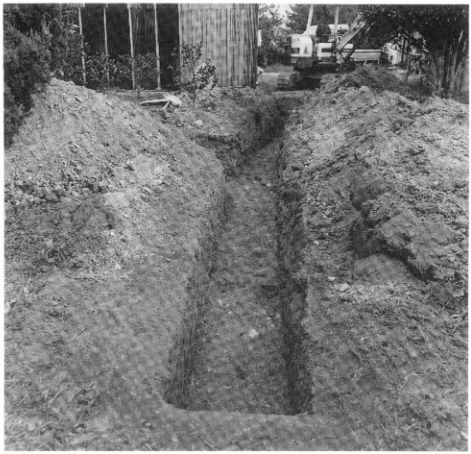


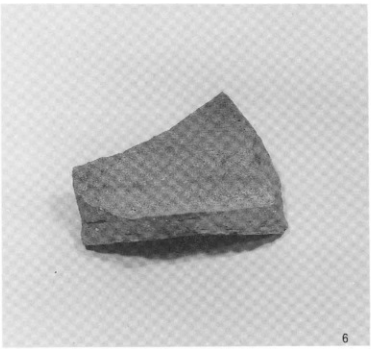
図版5　半田遺跡95－1区

図版6　陶邑窯跡群94－4区



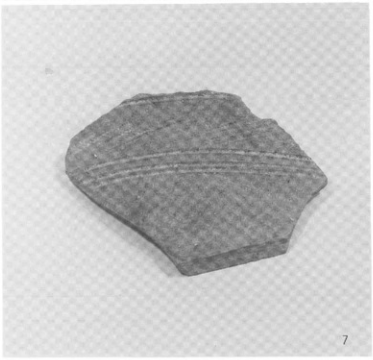
図版7　陶邑窯跡群95－1区

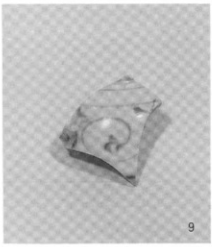


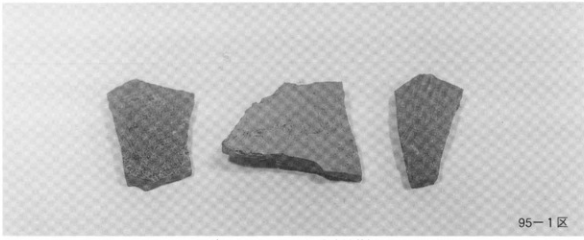

6

2

3


7


9


95－1区

（2～9：94－4区出土遺物）

大阪狭山市文化財報告書14

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書6

発行日　平成8年3月29日
発　行　大阪狭山市教育委員会
印　刷　橋本印刷株式会社